



## EDLSC 教授 平井 達也

### ・専門分野：

キャリアカウンセリング，  
異文化間カウンセリング

### ・科目：

キャリアデザインⅠ，  
多文化協働ワークショップ (MCW) 等

2021年10月時点

## Tips

1. 学生の学習におけるロールモデルの有効性の理解：学生 TA が自分の学習経験を活用し、教育内容に取り入れることができるようにする
2. 講義の内容を自分の生活と結びつけ、体験的に学習できるような状況を作る。
3. 学生の能力と可能性を信じ、知識を一方向的に伝授する方法から双方向の学び合いのプロセスに変える。

**Q:先生の授業で、一番授業計画に時間をかけているのはどの授業ですか？**

**A:**私が最も力を入れ、計画を立てている科目の1つは、1年生必修の多文化協働ワークショップ(MCW)です。この科目は、新入生を対象に日英両言語で開講されています。授業の方法のみならず、授業を教える教員、TA、職員も協働学習、つまりチームで授業を行っています。それぞれの授業では、英語基準の教員と日本語基準の教員のペアと、4人のリーダーティーチングアシスタント(LTA)と16人のティーチングアシスタント(TA)で構成されています。MCWのLTAとTAがまた、授業の到達目標のために協力して働けるように、以下のようなTAトレーニングを実施しています。

ワークの振り返りなどを行うことで、さらにTAとしての実力をつけてもらえるように工夫しています。

**Q:先生の授業では、学生の学びの質を高めるために、どのような工夫がなされていますか？**

**A:**体験学習は、私が学生の学びの質を高めるために使うツールです。この教授法は、学んだ理論を日常生活に結びつけることができるようになることに重点を置いています。学生が概念をより容易に理解するためには、その概念が実生活に結びつけられる必要があると私は考えています。

この一連の学習プロセスを可能にするために、まず、授業を講義パートと演習パートの2

1. セメスターが始まる前に、EDLSC(教育開発・学修支援センター)の教員2名が、3日間のLTA研修、2日間のTA研修を実施します。この研修では、LTAとTAがチームを組み、体験学習を通じてTAとしての力量を高めていきます。毎週の授業内容を学び、TAとして必要なスキルの指導研修が行われます。また、TAのルールや勤務態度についても説明を受けます。

2. 教員とLTA/TAは毎週必ず、授業前後にミーティングを行い、授業における学生の効果的な学び方や課題について話し合い、その解決策を考えます。

3. 上記に加えてセメスター中に2回のトレーニングセッションを行い、グループコンフリクトへの介入やTA同士のピア評価、TAチーム

つに分けます。MCWの場合、約100人の学生を対象に30~45分の講義を行い、残りの60分は、日本語基準の学生3名と英語基準の学生3名、計6名で構成される4つのグループに分かれ、演習を行います。講義パートでは、PadletやMentimeterなどのブレインストーミング・プラットフォームを活用します。このプラットフォームは、学生がブレインストーミングを行い、考えをまとめ、浮かんできた考えを忘れないうちに内容を記録できるようにします。このプラットフォームでは、学生全員が一斉に参加可能であるため、グループでアイデアを共有するときに便利です。また、講義内容を各自の経験と結びつけて考える際にも便利です。

私はこれまでの指導経験で、学生の多くは自分の持つ知識に見合う実践経験が足りてい

ないことがわかりました。そこで、講義パートと演習パートに分けることで、授業内容を体験につなげる余地を与えています。例えば、学生が講義パートで異文化間コミュニケーションについて学んだら、演習パートでは小グループでPadletを使ってそれぞれ個人の持つコミュニケーションスタイルを共有し、グループ内の様々な違いを持つメンバーおがどのようにすればお互いの持ち味を生かして活躍できるようなかを具体的に話し合います。このような取り組みは、多文化環境に置かれた自分自身の特徴を認識し、グループでの自己認識力を高めることを目的としています。

また、演習パートのリーダーとしてTAを活用することも、体験学習には重要です。多くの新入生にとって、TAはロールモデルになります。TAのリーダーシップとファシリテーション

は、学生の授業参加を促し、新入生がTAを見習って授業内外でリーダーシップを発揮するきっかけとなることもあります。TAの役割には、アイスブレイクやグループ活動、ディスカッションなどのインタラクティブな授業内容の進行が含まれます。MCWの学生のグループパフォーマンスやエッセイの内容に対して、前向きかつ建設的にフィードバックを行うこともTAの役割です。このようなモチベーションを高めるコメントは、メンター的な関係を通じて、学生とTAとの間のつながりを深めるのに役立ち、後の人生において有意義なネットワークに発展することもあります。また、TAはMCWの元受講生として、学習プロセスに独自の視点を与えてくれます。

**Q:先生の授業では、学生の学習意欲を高めるために、どのような工夫をな**

**されていますか？**

### 1. ピア評価

私の授業ではグループワークを行うことが多いのですが、そのほとんどの場合、与えられる課題に対してやる気のある学生とそうでない学生の両方がいることが多いです。この状況が放置されてしまうと、それまでやる気のある学生がやる気が失われるという悪い結果になりかねません。学生がお互いのパフォーマンスを評価し合うことで、学生がより責任感を持ち、授業内外でのグループ活動にやる気を持って参加し続けることができるようになります。受講生へのアンケート結果からも、ピア評価実施に関して多くの学生が肯定的に捉えており、ピア評価はお互いのやる気を高め、グループメンバーに対して肯定

的に建設的にフィードバックをする機会であると捉えてくれています。

### 2. ゲストセッション(APUの先輩学生・APU卒業生)

私が担当しているキャリアデザインIとピアリーダートレーニングの講義では、APUの卒業生や先輩をセッションに招いたり、卒業生のインタビュービデオを上映したりすることがあります。この方法も、授業内容を学ぶモチベーションを高めるために、ロールモデルを活用する方法の一つであります。キャリアデザインIでは、実際の自分の生き方やキャリアをデザインするプロセスを紹介します。そこで、そのプロセスを経験した卒業生をロールモデルとして起用することにより、そのプロセスの結果を学生に実践的に示すことができ

ます。また、先輩学生をロールモデルとして紹介することで、学生が大学生生活の初期段階で進路を決め、人脈を構築することにも役立ちます。

### 3. Zoom機能を活用した学生への働きかけ

**A:**ここ数セメスター間オンライン授業で学生のモチベーションを高めるための方法をいくつも試行錯誤してきました。私の授業はグループディスカッションが多く、エネルギーを使うので、学生のモチベーションを維持するために、彼らの貢献に感謝の意を示すことが大切です。例えば、小グループのブレイクアウトルームに割り当てられたら、フォローアップのために各グループに顔を出すようにしています。積極的にディスカッションに参加してい

る学生を見つけたら、ダイレクトメッセージで感謝の気持ちや肯定的なフィードバックを伝えるようにしています。小さなことですが、これがグループディスカッションにやる気を持ち、継続的に参加するきっかけになると考えています。

**Q:授業内容を改善する際、先生はどのような工夫をなされていますか？**

**A:**授業内容を改善する際には、3つのツールを使っています。1つ目はフィードバックやアンケート、2つ目は閉講後の授業内容の調整、3つ目はAPUのファカルティーデベロップメントワークショップや外部の教育ワークショップに参加することです。

MCWの場合、毎セメ末に、授業に携わる14

## MCW LTA 事前研修



名の先生方とミーティングを行います。この会議では、セメスターを通して起こったさまざまな問題について話し合い、フィードバックを得るとともに、来年度に向け、どのように授業を改善していくかを話し合っています。また、セメスター末にはアカデミックオフィスから授業評価アンケートの結果が発表されますが、私は例年、学生のフィードバックをもとに改善すべき点を心に留めています。そして、ほとんどの場合、セメスター末の会議とアンケートの結果をもとに、閉講後の授業内容の調整を行います。

また、APUのファカルティーデベロップメントワークショップや、外部の教育ワークショップにも参加もしくは主宰しています。年間平均10回のワークショップに参加し、聞き手として参加する場合もあれば、講師として指導する

MCWの講師として、私はTAと一緒に仕事を行っています。その中で、学生には、授業を効果的に運営するための対人スキルやファシリテーションスキルなど、素晴らしい潜在能力があることに気づかされました。学生を受動的で未経験な学習者と見なさず、私たち教員が学生の才能を発揮する機会を提供することが必要なのだと実感しています。学生がTAとなり、グループディスカッションをリードしていくことで、学生は自分自身を表現し、ユニークな経験や才能を共有することができるようになっていきます。このTA経験によって、学生はさらなるやる気と自信を持ち、自身の持つリーダーシップのポテンシャルを実感する行動を通じて、ますますリーダーシップを経験していくことができるのです。

場合もあります。

このようなワークショップを通して、定期的に自分の教育実践を振り返り、新しい技法やモデルを取り入れるようにしています。これらのワークショップは、特にこのコロナ禍において、非常に役立ちました。他の先生方と足並みを揃えながら、対面学習からオンライン学習への移行を進めることができたからです。また、これらの機会を通して他のベテラン教員から自身の教授法に関してフィードバックを受けることもできました。

## Q:先生が教育の過程で大切だと思うことは何ですか？

1. 学生にはたくさんの潜在能力と強みがあると信じること。

## 2. 教員としての学びを楽しむ

指導する側としても、学びのプロセスに参加し、そのプロセスを楽しむことが大切です。学ぶことを自分自身が楽しむことで、そのエネルギーが学生にも伝わります。好奇心旺盛な教員は、常に新しいことを学びながら成長し、学生とともに成長していくことができるのではないのでしょうか。

## Q:先生の授業を受ける学生に期待することは何ですか？

1. 自分の道をデザインする力を持つこと

これは、特に私が担当する「キャリアデザインI」を受講する学生に期待することです。これまで、高いGPAを持ち、課外活動にも積極的

## MCW TA 事前研修



に参加し、様々な授業を受けているにもかかわらず、将来何をしたいのか分からないという学生に出会ってきました。例えるとすれば、いろいろな食材があるのに料理の仕方を知らないようなものです。ただ単にいろいろな食材があるだけでは十分ではなく、最終的には、いろいろな食材とおいしい料理を作る能力の両方を持っていなければならないのです。ですから、成績や成果を上げることと、自分の道(生き方)をデザインすることの両方をバランスよくできるようになるべきなのです。成果と自分の生き方のバランスを上手く取れることで、自分も周りも幸せにできる人生を拓いていくことが可能になります。

## 2. 友情とネットワーク

大学は、学生にとって有意義な友人関係を

築き、つながりを育てるところでもあります。APUで意味のあるつながりを築くことは、例えば、異文化学習の継続、創造的なプロジェクトやビジネスの立ち上げなど、将来の取り組みの支えにもなります。私は、多くの卒業生から、グループワークや教室での交流が、生涯続く友人関係やグローバルなネットワークを築くのに役立ったと聞いています。ですから、学生の皆さんには、地球上のあらゆる地域の人々と友情を育み、それを最大限今後活かすことをお勧めします。その友情が将来の自分を支え、励ましてくれるでしょう。

# インタビューの感想

私は APU の 4 セメスターの時に、平井達也先生のキャリアデザイン I の授業を受講しました。キャリアデザイン I は、メイン講義とグループディスカッションに分かれた対話形式の授業でした。平井先生が紹介してくださったツールの 1 つは、性格の類型を探求する MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 理論でした。このツールは、自分が世界をどのように捉え、どのような判断をしているのかを自己分析するのに役立ちました。このツールは、この授業だけでなく、人生の他の側面でも役に立つことに気が付きました。今では重要な決断をするときは必ずいつも MBTI モデルを取り入れています。先生の授業のおかげで、自分の決断の質は格段に向上しました。また、このクラスと一緒に取り組んだグループのメンバーは、私の友人となり、成長し、多様である相互支援者の内の一人となっています。このように、平井先生の授業が、学生である私に直に恩恵をもたらしてくれたことを実感できました。

# 「Q」とは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてもらいたい、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。



# インタビュアー



名前：ムロムバ パスカル  
学部：APM  
出身国・地域：ジンバブエ  
メッセージ：こんにちは！パスカルです。私は読書が趣味で、特にタラ・ウェストオーバーの『Educated』（日本語タイトル：『エデュケーション 大学は私の人生を変えた』）と、フランシス・フクヤマの『歴史の終わり』の2冊が好きです。興味があるトピックは政治とサステナビリティです。スポーツはいま習っている格闘技にはまっています。